

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	平谷村型「信州こどもカフェ」推進事業
事業主体 (連絡先)	平谷村
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,637,524 円

事業内容

- ・子どもたちにとって心の拠り所となる、居場所「ひらひら平谷」の設備環境を整備することで、子どもたちが安心して、伸び伸びと成長できるようサポートする。
→放課後の居場所としての役割、学習支援（寺子屋、プログラミング教室、国際クラブ）、定期的なイベントの開催、不登校児への対応など
- ・地域住民にとっても、生活の一部となり気兼ねなく利用できる、みんなの居場所となるよう活動する。
→みんなの居場所として開放、定期的なイベントによる多世代交流の機会を創出（しめ縄作り、五平餅作り、卓球DAY） など



【ひらひら平谷の日常の様子】

【目標・ねらい】

- ①子どもにとって心の拠り所となる居場所を目指す
- ②学習支援や体験活動を通して子どもの成長を支援する
- ③保護者の方々が安心して育児ができる環境を整備する

事業効果

- ①子どもにとって心の拠り所となり、安心して伸び伸びと成長できる環境を整備できるよう取り組んだ。その結果、放課後元気にひらひら平谷で遊ぶ子どもの姿が多く見られた。村内の不登校児についても、ひらひら平谷の開所以降、学校の出席率に改善傾向が見られるといった好影響が見られた。
- ②学習支援活動について、タブレットの導入など先進的な学習内容を提供できたことで、子どもが積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。体験活動ができるイベントの実施は、参加率も高く、村民と交流できる場となったことも良かった。
- ③なんでも相談室（悩みの相談）を通して、育児に奔走する保護者の方々がリフレッシュできる場を提供できた。春夏冬の長期休暇一時預かりについても、保護者の方々から好評をいただくことができた。

※自己評価【 B 】

【理由】

本事業を通じて、子どもの成長や保護者の育児環境について、間違いなく好影響は見られているが、事業初年度ということもあり、節々で改善の余地はあったように思える。

今後の取り組み

今年度、本事業をスタートするにあたり、上記の3つの目標を軸にひらひら平谷が“みんなの居場所”となるよう取り組んできた。子どもたちにとっては、イベントや普段の活動を重ねて行くにつれて、心の拠り所となる居場所として認められ、保護者の方々や学校の先生方からは好影響が見られるとのご意見を多くいただくことができたので、継続しさらに発展させていきたい。一方で、地域住民との関わりといった面では、まだ成功例と言えるイベントも数回しかなく、今後こうした活動を増やしていくことで、より多くの方々に生活の一部としてひらひら平谷を利用していただけることを目指していきたい。

ひらひら平谷では、子どもたちの健全な育成環境を整え、学校・地域・行政が一つになって、未来ある子供たちの成長を応援していく。また、村民が集い、コミュニケーションをとって楽しく生きがいある生活を送れる活動の居場所としても環境を整えていく。